

カミノトピックス



いつまでも「開発型企業」として

今回ご紹介するのは、今年5月に千歳に北海道サテライト事業所を開設してから10年になる「(株)奈良機械製作所」様です。

奈良機械製作所は、社名に機械と入っているとおり機械を製造しているのは間違いのないのですが、粉粒体処理にかかる技術開発・研究を行い、それに合わせた機械の設計・製造を行っています。粒子設計技術においては高い技術があり「粒子設計・複合化・メカノケミカル反応等の先端粉粒体処理は、奈良に聞け！」と高い評価と信頼がよせられています。

「粒子設計技術」について岡本副主査様に教えていただきました。

皆さんの会社の中で一番身近なものはコピー機やプリンターのトナーになり、そのトナーの粒子の球形化を研究・設計・開発しています。また、食品ではきな粉、北海道ならではのコンブを粉にするなど粉碎する技術にかかわっているとお聞きしました。最近では、学校などで使われているホタテ貝殻配合チョークに使用する貝殻を粒子にする技術もあります。愛煙家の皆さんには無くてはならないタバコを粉砕する機械も日本タバコ産業に納入しているそうです。

『当社は、お客様の原料を目的とする粒子に粉碎したり、逆に粒にしたり、また、乾燥したりと、お客様の要望を満足するための最適な機械システム的设计・製作をしています。地球環境保全に関する開発も力を入れており、大量の産業廃棄物を乾燥させる処理装置の研究・開発も進めています。創業以来、一貫した「開発型企業」としての道を進んでいます。』との事です。

会社に訪問させていただくと廊下に絵画が飾ってあり、ちょっとしたギャラリーのようです。社屋のデザインや敷地の庭園など独創的であると感じていましたが、創業者・奈良自由造氏は創造的・独創的英知をもった方で、会社のロゴマークも作られたとの事です。

本社の朝礼では、「創想は叡智により、努力は体力による、やるかやらぬは意気にある」と全員で唱和するそうです。商品が作られるまでのこだわりが良い商品を作るのだと感じられました。

私たちの生活の中では、設計・製造した機械に触れることはありませんが、私たちの生活にはなくてはならない技術です。奈良機械製作所の皆さんは、今日も研究・開発を繰り返しています。

談：E.S・岡田



岡本副主査様と
村上様。



廊下はまるでギャラリーのようです。
まさに“デザイン”会社です。

仕事の余裕

私は、仕事に就いた19歳の時からこれまでに毎年のように職場研修が与えられていた。今考えると与えられたとはいえ当時は相当の苦痛があったのは事実ですが、この期間の数ある研修の中で教えられた「アイドリングタイム」という言葉がある。当時はそれほど意識して行動していたとは思えないが、何故かこの言葉が今でも忘れられない。

仕事をする上で大切なことは「自分は今何をしているのか。今何をしなければならないか。」を意識することではないだろうか。実務をこなすのは当然のことであるが、常にこのことを考える時間を1日に1回は持つべきである。そして、5W1Hを組み立て1日の行動すること。当時の講師の方の本当の意味はこのようなことではなかったのかもしれないが、自分ではこの言葉の意味を思い起こすことが1日の始まりとして今日まで仕事をしてきた。

これまでにいろいろの方との出会いがあり感じることもある。それは、「アイドリングタイム」が無さ過ぎること。5W1Hが組み立てられていないこと。話し言葉に主語が無いこと。このため、その人と面談していてもその人の真意を理解するに時間を要することになり、本当にこれでよいのかと思う機会が多くなってきた。

自分自身が余裕のある年代になってきたからこそより一層感じられるのかもしれない。



アイドリングとは、機関の主目的（推進など）に貢献せず、しかし稼働に即応できる様態を維持しようとする動作、あるいはその状態を示す。転じて、「人生のアイドリング」といった表現も存在する。これは「充電期間」とも呼ばれ、活発な活動に備えて、心身ともに安らいでいる状態を指す（フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より）とされています。仕事には、この充電期間そして1日の中には充電時間が必要なことではないでしょうか。自分の行動に余裕を持つためにも。

談：M1・井上





今回、『社会福祉法人 千歳洋翔会 アリス保育園』様を取材させていただきました。時々訪問させていただくと、たくさんの車があり、お客様が多いのかなと思っていましたが、「子育て支援センター」が併設されているため、利用されている方々が来園されているからでした。恥ずかしながら「子育て支援センター」の事業内容をよくわからず、今回、アリス保育園の活動を児玉園長様に教えて頂きました。『平成11年にアリス保育園を開園し、併せて千歳市の委託事業として子育て支援を始め、今年で10年目を迎えました。「子育て相談」「子育てサロン」「子育て講座」「子育てサークル支援」「親子スクール」など無料で行っていきます。また、支援センターを利用したことのない方は、ぜひ一度来園してみたいかがでしょうか。子育ては悩みのつきないもの。昔と違い核家族が多く、また、転勤などで知人もいない土地で、本などの情報の「こうあるべき…」に悩み、子育て相談で来園したり、支援センターを利用することで、他のお母さん同士と横のつながりができ、皆さん安心してにこやかに帰られます。子育て親子に、ちょっと手を差し伸べることで安心したり、見通しを持つことができます。支援センターはそのお手伝いをしています。』との事です。今回の訪問時にも「トイレトレーニング」の講座中で、30組程の親子が情報交換をされており、和気藹々と活動されていました。

アリス保育園ではここ数年毎年「全国教育美術展」で特選・入選を受賞しています。絵画指導は、子どもの意思を尊重し、自由な発想で能力を引き出すことが大事。「この形や色でなくてはならない」ではなく、子どもが思ったとおりに表現できるようにしているとの事です。

最後に園長先生は、『昨今、子どもに関する様々な事件が起きていますが、子どもの教育はもちろん、親と共に育つ「共育」が重要です。』とおっしゃっていました。

園内を案内していただいている間も、園長先生は赤ちゃんをおんぶしている先生にアドバイスをしたり、駆け寄ってきた園児にやさしく話しかけたり、常に子どもに目配り気配りされていました。また、すれ違う先生方も笑顔で挨拶していただき、やさしい気持ちになりました。

「こんなこと聞いたら…、誰かに聞いてもらいたい」などあれば、迷わず相談してみたいかがでしょうか。様々な公職にもつかれ大変お忙しい園長先生ですが、今回快く取材を受けて頂き、貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございます。

談：E.S・柴田



児玉園長様。バックの絵は園長様が描いた油絵。ご自身も美術展で入選する腕前です。

当社の春の恒例行事「ゴミ拾いに、パークゴルフに食事に、そして、今年は風呂も入れます！」を行いました。前日まで雨模様…。開催できるか心配でしたが、当日は寒いながらも開催することができました。ゴミを拾い、分別。今年は一段と燃えやせないゴミが多いように感じました。

いざ、パークゴルフ。初めてのコースなので四苦八苦しながら“芝をよみ(!?)、寒さと戦いながら18ホールを終了しました。今回はないであろうと思われた“ホールインワン”が、なんと2名も出てしまいました。

札幌北広島クラッセホテル様にお世話いただき、屋外での焼肉。寒い寒いといながらも食にビールも進むこと…。食後は天然温泉「楓楓」で疲れを癒してきました。

毎年このようなことが出来るのも、皆様のご支援のおかげと感謝しております。今後も皆様のお役立ちになれるようがんばります！



●「マイ箸」はいかがですか。

地球環境保護、エコロジーの観点から最近「マイ箸」がブームです。

今回「名入れのできるマイ箸」をご案内します。天然木のやさしい色合いで、とても使いやすい箸です。ノベルティに大人気です。

「自分だけ持っていて…」から「自分だけでも…」その気持ち一つが地球環境を守ります。

この機会にいかがでしょうか。

※ 素材—鉄木、白南天 サイズ—225,195,175 mm

※ 名入れロット数は素材・サイズ込みで100膳より

※ 台紙サービス。箸袋、キャップは別途。



＝箸の歴史＝

日本に箸が入ってきたのは弥生時代末期。その当時の箸は「折箸」という1本の竹をピンセットのように折り曲げた形で、祭祀・儀式用の祭器として使われていたと言われています。一般の食事に使われるようになったのは7世紀の初め。遣隋使が王朝で箸を使い食事したことに驚き、その報告をもとに箸を食事に使わせたのは聖徳太子でした。8世紀には箸食が一般に広まり、竹製が主に使われており「箸」が「竹かんむり」なのはこのためです。江戸時代には漆塗りの塗箸も生まれ、様々な色や形の箸が作られるようになりました。